

2013年1月31日

東京ガス株式会社

2013年3月期 第3四半期 決算説明電話会議

主なQ & A

Q 1 : 今冬の気温は平年よりも低いようだが、御社のガス販売量通期見通しにどれだけその影響を織り込んでいるのか？

A 1 : 1月中旬までの気温について、家庭用、および業務用のガス販売量見通しに反映させている。換言すれば、第3四半期および第4四半期の一部には低気温影響が織り込まれている。一方1月下旬以降については平年並みの気温を前提に見通しを作成しているため、想定より低気温になれば販売量増加要因、高気温となれば減少要因となる。

Q 2 : 工業用ガス販売量について、前回発表と比較して通期見通しを上方修正している理由を聞きたい。また、現在の景気状況をどのように認識しているか、聞きたい。

A 2 : ガス販売量の年度見通しについて、発電向けについては第3四半期の実績が前回発表を上回ったため、この分を上方修正した。第4四半期については、前回の想定通りの見通しとしている。一般工業用については前回見通しを若干上方修正した。これは、発電向け同様第3四半期の実績が前回発表時想定を上回った分と、第4四半期における一部の個社事情を上積みしたものだ。足元の需要については、工場の生産増やコージェネの稼働増は見られるものの、鹿島地区を除く既存地区では対前年では販売量が減少している。前回発表時より好転しているものの、景気が回復していると断言できる状況にはないものと認識している。

Q 3 : 最近円安傾向にあるが、年度収支に与える影響を聞きたい。

A 3 : 第2四半期終了時点では、下期の為替の前提を1ドル80円としていた。今発表では、足元の状況を鑑み第4四半期における為替の前提を1ドル90円へと変更した。この変更も要因の一つとなり、通期経常利益見通しを1,540億円から1,440億円へと100億円下方修正した。なお、第4四半期を通じて1ドル90円の前提より1円円安になった場合、当社のガス事業の粗利および営業利益に対し、17億円の減益要因になると想定している。逆に円高になれば、同額の増額要因になると想定している。

以上